

9 月号
VOL. 498

土會奈良



SHIKAI

2017 NARA

表紙のことば

今号のテーマは、“応援しよう熊本”です。2016年4月の熊本地震で被害を受けた建築物、時代の流れで忘れ去られようとしている建築物、印象に残っている建築物などを紹介します。



熊本城は加藤清正が改築した平山城で、熊本地震により現存石垣をはじめ、宇土櫓などの文化財建造物や大小天守などが被災しました。写真は8月上旬の状況で、現在は復旧事業が行われています。八代港～松島合津港を1日5往復していた天草フェリーライン シーガルは出張でよく利用しましたが、2013年4月1日をもって廃止になりました。切符売場の女性が目に涙をためていたことも印象に残っています。全国に約450社ある阿蘇神社の総本社は、熊本地震により楼門と拝殿が倒壊し、神殿も大きな被害を受けました。昨年8月から復旧事業が始まっています。



崎津天主堂は1934(昭和9)年に鉄川与助が建立し、ゴシック様式の三廊式平屋、リブ・ヴォールト天井構造、切妻屋根瓦葺きが特徴の建築物です。訪問時、管理されている方がご不在のため、内部へ入れませんでした。鞠智城は、白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に大敗してその侵攻に備えるため、武器・食糧を補給する支援基地の役割を果たしていた朝鮮式山城です。高さ15.8mの八角形鼓楼は、古代ヘタムスリップさせてくれます。三角港フェリーターミナルの設計者は建築家の葉祥栄氏、現在はほとんど使われていないようです。二重螺旋のスロープの床版によって連続的に補強されたコンクリート外殻構造で、直径34m、高さ25mの円錐形の建築物は巨大なうんこのように見え、立ち寄ると用を足したくなります。



青井阿蘇神社は806(大同元)年に創建され、阿蘇神社の御祭神十二神のうち、三神の御分霊が祀られています。鳥居は大阪の鋼管メーカーが製作したようで、好感が持てます。祇園橋は長さ28.6m、幅3.3mの橋間に約30cmの角柱が5列5行45脚で支える石造桁橋で、国内最大級です。この川を挟んでキリシタン軍と唐津藩の死闘が繰り広げられ、屍で埋め尽くされました。1832(天保3)年に庄屋 大谷健之助が発起人となり、完成したものです。大江天主堂は、1933(昭和8)年にフランス人宣教師 ガルニエ神父が地元信者と協力して建立したロマネスク様式の教会です。私にとって訪れた最西端の地です。

(写真・文 情報・広報委員会 水守寛敏)

情報・広報委員会

委員長	松尾 憲治	
副委員長	折目 貴司	大倉 克之
委員	乾井 哲	水守 寛敏
	松村 泰徳	小松原寛俊
	崎山 泰正	福西 保夫
	福本 保治	藤井 靖彦
	宮浦 重彦	福田 成生

Contents

001

女性委員会

平成29年度

第27回全国女性建築士連絡協議会

002

情報・広報委員会

「鋼と建築」連載寄稿の要約と謝辞

003

青年委員会

研修旅行2017 in 京都

004

奈良県建築士会における

空き家対策の取組

006

平成29年度 青年・女性建築士会の集い

中四国ブロック鳥取大会 参加報告

008

教育事業委員会

(開催予告) 伊藤豊雄講演会 in

薬師寺食堂

009

おしらせ

ホームページ・ヘッドライン

建築士試験日程 他



女性委員会報告

平成29年度 第27回全国女性建築士連絡協議会（東京）

「未来へつなぐ居住環境づくり」—和の空間を考える—

昨年7月に奈良で開催した第26回全建女（奈良）から早1年。今年は東京で第27回全建女（東京）が7月15日（土）～16日（日）に開催されました。場所は、東京都港区芝のリロ会議室田町、日本建築学会建築会館ホール、建築会館学会会議室、読売理工医療福祉専門学校です。

▶15日 11:00～12:45 リロ会議室田町5階で全国女性委員長（部長）会議。①全建女（東京）アピール文の検討 ②「魅力ある和の空間」ガイドブックの作成 ③京都全国大会④第30回全建女開催地、について協議。その後、全国単位士会女性委員会の活動報告。持ち時間1分だったが、様々に特色を活かした活動が紹介され、刺激を受ける。

▶13:00からは会場を建築会館ホールに移し、開会式。三井所連合会長、村松日本女性学習財団理事長、岡本連合会女性委員会担当副会長からの開会挨拶



▶北海道女性委員会の活動「高校住教育講座～はじめての一人暮らし～」。北海道の高校生は卒業するとほとんどが一人暮らしを始める事もあり、高校の家庭科に出張講座を行い、賢い消費者・提供者になってもらう授業の報告。

▶宮崎県女性委員会の活動「『ノベオカノマドハウス』リノベーション プロジェクト」。延岡市駅前の空き店舗を市民参加ワークショップにより市民活動拠点施設にリノベーションした報告。

▶岩手県、宮城県、福島県、熊本・佐賀県、鳥取県から被災地報告。最近の豪雨被害もあり、この被災地報告はますます重要になると感じる。

▶16:00から基調講演。講演者は博物館明治村館長、早稲田大学名誉教授、建築史家の中川武氏。「和の空間を考える—一居住空間にとって美とは何か—」と題して、日本の住宅史、日本住宅の生産史的展開を講演。奈良県河合町の佐三



田宝塚古墳から出土した家屋文鏡の説明に始まり、法隆寺と竪穴住居、中世の重源による宗教と建築の関わりなど、話しは多岐にわたり、和の空間の成り立ちについて熱く話され、興味深く拝聴した。

▶17:30から全体交流会。会場はそのまま建築会館ホールで。ビール、ソフトドリンク、軽食で、参加者と交流。その間に、全国7ブロックの代表から1×1（ワン・バイ・ワン）による活動報告があり、近畿は滋賀・和歌山の委員長が近建女の活動を報告。

▶16日 08:50～10:40 建築会館学会会議室と読売理工医療福祉専門学校に分かれて分科会。

- ・A分科会「防災への取り組み」広島県建築士会
- ・B分科会「地産地消のすまい」福島県、宮城県建築士会
- ・C分科会「歴史的建造物と建物再生」三重県建築士会
- ・D分科会「環境共生住宅」宮崎県建築士会
- ・E分科会「自治体連携とまちづくり」富山県建築士会
- ・F分科会「子どもと住環境」東京、愛媛県建築士会
- ・G分科会「高齢社会とすまい」大阪府、兵庫県建築士会
- ・H分科会「既存ストックの活用」東京建築士会



G分科会では、大阪府から「安全・安心・安らぎの家」普及活動を、兵庫県から「UD研究会の活動経緯と今後の展開」が発表され、参加者

からは、質問と取り組み事例等の発言があった。

▶11:00からは建築会館ホールに集まって、全体会。

分科会報告、全体総評、全建女（東京）アピール、京都府女性委員会から全国大会京都大会への参加要請があり、最後に、来年第28回全建女（高知）への参集を期して閉会。いつものように、中身の濃い会議だった。

（記・女性委員会 本保万貴子）



情報・広報委員会

「鋼と建築」(日本建築総合試験所 井上一朗様)の 連載寄稿の要約と謝辞

■はじめに

「鉄ほど人間に深くむすびついた金属もない」。歴史小説家司馬遼太郎の印象的な言葉から始まった連載寄稿文も、あっという間に終了してしまいました。連載当時、日本建築総合試験所の副理事長であられた井上一朗氏は、今年度より理事長に就任され、今後とも建築業界として益々お世話になることになりそうです。今回も大変興味深い連載となり、全6回を振り返りたいと思います。

■第1回「鉄と鋼」

現在我々が広く使用し、「鉄」と呼んでいる金属は、その多くの成分が金属元素の鉄(Fe)であり、その他に炭素(C)、珪素(Si)、燐(P)、硫黄(S)、マンガン(Mn)、クロム(Cr)、その他の元素を含んだ合金になっている。地球の内部構造において、核の部分はニッケルを含有する鉄でできており、地球の重さの1/3は鉄である。鉄は炭素の含有量に応じて性質が大きく変化し、純鉄・鋼・銑鉄のように分類されている。鉄鋼製品を造り出すには、まず炭素成分と不純物が多い銑鉄を造り(製銑)、次に炭素と不純物を大幅に減らして鋼を造る(製鋼)。次に鋼を押し延ばして、H形鋼などの圧延鋼材に成形する(圧延)。

■第2回「粗鋼生産と建築における鋼の使用量」

日本の鋼構造建築の建設は19世紀末から始まるが、当初は米、仏などからの輸入鋼材が用いられていた。鋼の大量生産はベッセマーの転炉法の発明(1856)に端を発するが、わが国における鋼の大量生産は、1901年の官営八幡製鉄所高炉の火入れ(稼働開始)に始まる。高度経済成長期は粗鋼生産が飛躍的に伸びている時期と重なる。日本の高度経済成長期が終った1970年以降2000年ごろまで、世界の粗鋼生産量は7億トン前後で推移している。その間、日本と米国の生産量は1億トン前後であって、両国で世界の3割程度を占めていた。しかし、日本の鉄鋼メーカーの技術援助を受けて建設された上海宝山鋼鉄(現宝山鋼鉄)で1985年に高炉が稼働し始めると、1996年には中国が世界のトップに立つ。特に2005年以降の中国の急速な粗鋼生産拡大の結果、現在世界の粗鋼生産量は16億トンに達している。

■第3回「兵庫県南部地震；鋼構造建物の被害の概要」

1995年午前5時46分に発生した兵庫県南部地震は6400人強の人命を奪い、約10兆円の物的被害をもたらした。相当数の鋼構造建築物が倒壊を含む損壊を被っている。新耐震以降の柱梁仕口溶接接合部に限定して当時の被害状況を振り返ると、溶接部が不良で発生する被害は熊本地震でも観察されている。一方、梁端が完全溶込み溶接されていて脆性破断した建物は残留変形が小さく、また当該箇所が内・外装材、そして耐火被覆に囲われているため、発見がむづ

かしい。このことは、脆性破断が発生する可能性があるような接合部をもつ建物の耐震性能に関わる品質は保証できないことを意味している。耐震安全性は設計法だけで確保されるものではなく、施工の良し悪しとその性能を左右する。設計と施工の協働が欠かせない。

■第4回「その後の柱梁溶接接合部・日米比較」

兵庫県南部地震のちょうど1年前の1994年1月17日にノースリッジ地震が発生している。鋼構造建物の溶接部に生じた被害(脆性破壊)は、建物の残留変形が小さく、地震直後には露見しなかった。地震後1ヶ月ほどして被害実態が明らかになり、一時は見えない被害として社会問題にもなっていて、米国史上最も経済的損害の大きい地震被害となった。日米両国の地震後対策に関しては、どちらも従来の工法の改善でケリをつけようとしたのであるが、日本は柱梁接合部周りの溶接箇所や溶接量が米国より相当多いため、問題も複雑化したと言えるだろう。一方、米国は溶接棒の改善と溶接部に過大な応力・歪を作用させないという方向で比較的早期に決着をつけてしまった。

■第5回「摩擦の原理と高力ボルト接合の話題」

高力ボルト(HTB:High Tension Bolt)接合に関する研究課題についての話題。HTBは、鋼構造骨組における梁や筋違の継手に多用されているが、断面が大きくなると全長のほとんどが継手となることもある。1990年台の初頭、継手のHTB本数の削減を目的とする研究を井上一朗氏は開始した。「波形高摩擦鋼板」の大臣認定を取得し関西電力本社ビル等に採用されたが、コストの壁を越えられず、製造中止という残念な結果に終わった。「アルミ溶射添板」を用いると従来の摩擦面処理に比べてボルト本数が2/3になり、F14T超高力ボルトと組み合わせると半分になる。「あべのハルカス」の柱梁接合部などに採用され、使用実績は徐々に広がっている。

■第6回「高力ボルトを活用した柱梁接合システム」

「柱の切断・溶接不要、仕口周りの現場溶接不要」をキーワードに考案された「方杖接合構造」「分割外ダイヤ仕口構法」の話題。溶接と高力ボルトは適材適所で活用すべきで、どちらか一方にこだわると無理が出る。要は真の実力が不明な溶接には十分な安全率をとって命を預けない(溶接部を塑性化させない)ことが原則であろう。

■謝辞

日本建築総合試験所理事長の井上一朗様には、公務が大変お忙しい中、一年間に渡り連載執筆頂き、誠にありがとうございました。

(記・情報・広報委員会 折目貴司)



青年委員会 研修旅行2017 in 京都

去る3月31日（金）に青年委員会主催の「研修旅行2017 in 京都」が開催されました。

7時30分に大和八木駅に参加者が集まり始め、8時前にバスで出発。途中大和西大寺駅を経由して16名の参加者を乗せて京都へ向かいました。



まず、最初に向かったのは、「アサヒビール大山崎山荘美術館」。大山崎山荘は大正から昭和初期に、実業家・加賀正太郎が別荘として自ら設計した英国風の山荘であり、その後加賀家の手を離れた山荘は、平成に入って取り壊しの危機にありましたが、アサヒビール株式会社が京都府、大山崎町と協力して山荘の復元整備を行いました。こうして大山崎山荘は、1996年春に「アサヒビール大山崎山荘美術館」としてよみがえりました。

10時半頃JR山崎駅に到着し、徒歩で美術館まで移動。記念撮影を撮った後、各自で館内を見学しました。建物は、加賀正太郎が設計した本館、安藤忠雄が設計した地中館「地中の宝石箱」、山手館「夢の箱」で構成されており、まずは本館を見学。美術館では、ちょうど「生誕150周年記念 漱石と京都一花咲く大山崎山荘」のイベントが開催されており、夏目漱石が加賀正太郎に送った書簡などが展示されていました。建物の特徴としては、階段踊場の開口にはステンドグラスがはめ込まれており、部屋の照明も一つ一つが違ったデザインになっているなど、非常に内装に凝った建物でした。構造は上棟部が、イギリスのチューダー・ゴシック様式に特徴的な木骨を見せるハーフティンバー方式を取り入れ、鉄筋コンクリート造、屋根部分には鉄骨が組まれている建物となっています。本館2階には山荘周囲の庭園を眺めることができるカフェがあり、コーヒーを頂きながら眺望を楽しみました。地中館は周囲の景観との調和をはかるため半地下構造で設計され、展示室では、印象派の巨匠クロード・モネの「睡蓮」が展示されていました。山手館は本館と山手館をつなぐガラス張りの廊下の先にあり、円柱形の地中館「地中の宝石箱」とは対照的に、箱形で構

成されていました。

12時頃まで見学を行い、外に出ると到着時には曇り空だった天気の本降りになっており、しばらくバスの中で待機し、12時半頃、山崎駅近くにあるレストランタガミへ移動して昼食。乾杯の後、美味しいパスタやフィッシュフライなどを頂きました。

午後からはバスで1時間程移動し、「青蓮院」へ。14時半頃到着し、まずは平成26年に移築再建された青龍殿を見学しました。寺院の方より、移築の経緯や建物の特徴、設計や施工時の話を詳しく聞くことができました。そもそも青龍殿は、大正2年に大正天皇の即位を記念して、「大日本武徳館京都支部武徳館」として京都北野天満宮前に建立された木造大建築物であり、戦後は京都府に移管され、「平安道場」として警察の柔剣道場の道場となりました。その後、平成10年、雨漏りの修繕に多額の維持管理費用がかさむことから解体処分が決定しましたが、青蓮院が歴史的文化遺産の継承を決意し、京都東山山頂に「青龍殿」として移築再建されたとのことでした。なお、青龍殿奥殿には国宝「青不動」が安置されているとのことでした。また、青龍殿には京都府を一望できる新名所「大舞台」があり、京都の大舞台と言えば、清水寺の舞台が有名ですが、青龍殿大舞台は清水寺の舞台の4.6倍の広さがあり、右手には比叡山、目の前には銀閣寺、京都大学、その先には京都御所、左手には京都市中心部が見え、京都を一望できました。当日は雨なのが残念でしたが天気の良い日にまた訪れたいと思いました。また、舞台には期間限定展示の「ガラスの茶室—光庵」が展示されていました。16時過ぎまで見学し、京都駅へ。一旦解散した後有志で懇親会を行い、無事研修旅行を終えました。



最後になりましたが、本見学会にご協力頂きました、アサヒビール大山崎山荘美術館様、レストランタガミ様、天台宗青蓮院門跡様に厚く御礼申し上げます。

（記・青年委員会 植田康夫）



奈良県建築士会における空き家対策の取組

—空き家対策部会を創設—

1 空き家等対策法の施行

近年の人口減少や既存住宅や建築物の老朽化、社会的ニーズの変化に伴い、空き家が全国的に増え、社会の問題となっています。

平成25年住宅・土地統計調査によると、全国では約820万戸の空き家があり総住宅に占める割合（空家率）は13.5%であり、奈良県では、約84,600戸の空き家があり、空家率は13.8%となっています。



まだまだ活用できる空き家

これらの空き家には、適切な管理が行われず、防災、衛生、景観等の地域住民の生活環境に深刻な影響を及ぼしているものも多く見られます。

そのため、平成26年10月時点で、全国の401の地方自治体において、空家等の適正な管理を促すため、空家適正管理関連の条例が制定されていました。これらの状況を踏まえ、平成26年に「空家等対策の推進に関する特別措置法」は交付され、平成27年5月に全面施行されました。

同法では、「空家等の所有者又は管理者は、周辺の生活環境に悪影響を及ぼさないよう、空家等の適切な管理に努める」と規定するとともに、市町村は、「空家等対策計画の作成及びこれに基づく空家等に関する対策の実施その他の空家等に関する必要な措置を適切に講じるように努める」と規定されました。特に適切な管理がされず周辺の生活環境に著しく影響を与えている空家等（特定空家等という。）については、市町村が所有者等に適正に管理を行うよう指導・助言、勧告、命令をし、それでも適正に管理をされない場合は、代執行を行うことができるようになりました。

2 奈良県内の空き家対策の動き

そこで、奈良県内の市町村では、空き家の実態を調査し

て、空き家の課題を明確化して「空家等対策計画」の策定作業が進められています。市町村においては、「空家等対策計画」の策定にあたり、行政だけでなく住民や専門家等の意見を取り入れるべく「空家等対策協議会」を設置するケースが多く見られます。



ある市の空家等対策協議会

そして、多くの市町村では、「空家等対策協議会」に参画する建築の専門家委員として、奈良県建築士会に推薦を依頼されています。現在、奈良市をはじめ10以上の市町村で推薦された奈良県建築士会員が「空家等対策協議会」に出席して意見を述べています。

また、空き家等の相談会の開催や空き家等の実態調査にも参加する機会があることも想定されます。

3 （公社）日本建築士会連合会の動き

全国の空き家への関心を受け、（公社）日本建築士会連合会では、平成27年度空き家管理等基盤強化推進事業のため、「建築士会等空き家の適正管理方策等検討会」が組織されました。そこで、空き家の適正管理ビジネスに、建築士会・建築士として、関与するための環境を整備することを目標として、空き家調査のための空き家標準カルテ、維持保全サービス標準等について検討し、その成果として「空き家相談・診断・助言マニュアル」が作成されています。

そして、これらを建築士に普及するため、平成28年度には、空き家活用土養講座研修テキストが作成されました。

また、（公社）日本建築士会連合会まちづくり委員会内の組織として、新たに、街中（空き家）まちづくり部会が平成29年度に設置されています。

4 奈良県建築士会の動き

このような状況をふまえ、(一社)奈良県建築士会では、平成29年度に住まいまちづくり委員会内に空き家対策部会を創設しました。

空き家対策部会は(一社)奈良県建築士会の住まいまちづくり委員・市町村における空家等対策協議会の委員となっている建築士、その他空家等対策に関して興味を持つ建築士会員により構成し、(公社)日本建築士会連合会の街中(空き家)まちづくり部会と連携を図ることとしました。

当面の活動としては、各市町村での「空家等対策計画」の取り組みの整理・情報の共有化を図るためにアンケート調査を実施すること、各市町村における「空家等対策協議会」でなされた議論についての建築士会としての考えを整理するための勉強会を行います。

そして、(公社)日本建築士会連合会の「空き家活土養成講座」の開催準備し、「(仮称)空き家等対策に関するシンポジウム」の実施を検討しています。

5 空き家の今後

空き家が増加していますが、世帯数が減少していくことが明らかであり、今後も増え続けていきます。それらの空き家で転用すれば活用できる物件が沢山あります。われわれ建築士は職能を活かす場がそこにあると思います。



空き家をコワーキング・スペースに改修

(記・檀原支部 米村博昭)

国土交通省の先駆的空き家対策モデル事業「まちづくり団体による自己管理が困難な空き家の適正管理の実証事業」が採択

「大和・町家バンクネットワーク協議会」は、奈良県内の歴史的町並み地区で空き家の利活用を推進するために、平成23年に創設されました。一般社団法人奈良県建築士会も本協議会に参画しています。このほど、大和・町家バンクネットワーク協議会が国土交通省が募集する「先駆的空き家対策モデル事業」に応募し採択されました。

平成28年度には、「自己管理が困難な所有者等の適正管理支援仕組み」が採択されており、本年度は2年目となります。昨年度は、遠隔地居住や福祉施設入居などにより自己による適正管理が困難な空き町家の所有者に、空き家の利活用を前提で、歴史的建造物の特徴を踏まえた適正管理を地域のまちづくり団体等が行うための手法や体制などを検討して、「空き家管理マニュアル」を作成しました。

平成29年度には、「まちづくり団体による自己管理が困難な空き家の適正管理の実証事業」が採択されました。

内容は、地域のまちづくり団体には空き家管理の経験がないことから、昨年度に作成した「空き家管理マニュアル」による実地での講習を受け、その後、空き家所有者モニターを募り、実際に空き家管理を行いその結果を検証するものです。

また、空き家所有者に空き家管理の報告とともに、地域における不動産流通の動向やまちづくり活動情報を提供するとともに、空き家利活用の提案も行うものです。

奈良県建築士会としては、空き家の適正な管理が、その後の利活用にとって大切なことや、利活用の事例等を発信していくことを考えています。

(記・檀原支部 米村博昭)



平成29年度 青年・女性建築士の集い 中四国ブロック鳥取大会 参加報告

1 はじめに

6月10～11日に米子コンベンションセンターで開催された平成29年度 青年・女性建築士の集い 中四国ブロック鳥取大会に参加したので、以下に報告します。大会テーマは『つなぐ』、サブテーマは『防災…建築士として何が出来るか！ するべきか!!』で、地域や人、伝統や技術などを大会を通じて発信し、『つなぐ』ことが趣旨です。

2 大会スケジュール

【6月10日】

- 12:40～13:10 開会式
- 13:25～16:45 セッション1 [地域実践発表]
セッション2 [防災分科会1]
セッション3 [防災分科会2]
※各セッションに分かれて参加
- 17:00～17:30 地域実践活動報告総評・表彰式・最優秀者の発表再演・閉会式



19:20～21:30 大懇親会

【6月11日】

9:50～12:00 植田正治写真美術館コース(Bコース)

3 セッション3 (防災分科会2)

東日本大震災や熊本地震などの甚大な被害とともに避難所の状況を目にする機会が増え、そこで起こりえる様々な問題が取り上げられてきました。例年は地域実践活動報告会に参加していましたが、建築士として防災の重要性を再認識したいと考え、本セッションを選択しました。

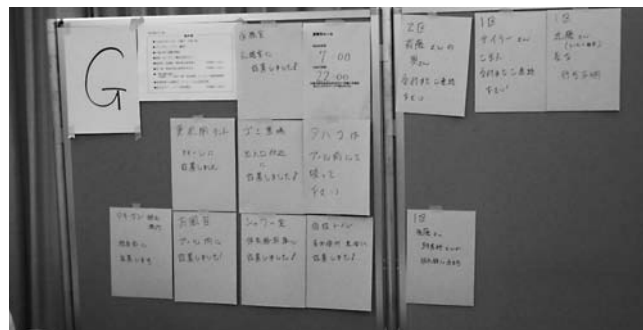
3.1 タイムスケジュール

- 13:25～13:40 挨拶・趣旨説明 (15分)
- 13:40～15:00 HUGの実施 (80分)
- 15:15～15:45 発表 (30分)
- 15:45～16:45 震災体験者の体験談・全体ディスカッション・まとめ (60分)

3.2 内容

7グループに分かれて、災害時避難所シミュレーション(HUG)を体験しました。アイスブレイキングを行って

リラックスしたあと、リーダー・記録役を決定し、小生は記録役になりました。避難者の年齢・性別やそれぞれが抱える事情が書かれたカードを避難所に見立てた平面図に配置し、要援護者への配慮をしながら部屋割りを考え、炊き出し場や仮設トイレの配置、起こりえる様々な事象に対して話し合いながら決定しました。休憩後、5分程度の振り返りを行い、特筆すべきポイントについてグループリーダーが発表しました。また、他のグループリーダーからの質問に対して回答するなど、フィードバックもできました。



鳥取県中部地震で避難所開設に携わった行政担当者、メンバー全員が震災経験者である鳥取県建築士会のスタッフを交え、被災体験や避難所の状況について情報共有しました。災害時に避難所運営を行うのは行政ではなく、避難者自身であることから、殺到する人々や出来事に対してどのように対応すべきであるのか、意見交換の場になりました。なお、宮城県建築士会 清本多恵子氏を招聘する企画になっていましたが、予定の航空機に搭乗できず、本セッションには間に合いませんでした。

3.3 避難所体験・非常食試飲会

会場に防災ブースが設置され、賞味期限が間近になったために自治体から譲っていただいた非常食を試食しました。

4 懇親会

『鳥取の旨いもんを食べに来てほしい!!』をテーマに、鳥取県のブランド豚であるトトリコ豚やベニズワイガニなどの海産物が振る舞われ、大山Gビールも嗜みました。各

県のPRタイムでは会場を沸かせるところもあり、あらためて青年・女性建築士の漲る活力を感じました。アトラクションは米子市無形民俗文化財に指定されている『淀江さんご節』で、“壁塗りさんご”では観客も参加し、舞台と客席が一体となって、お座敷芸を楽しみました。



5 エクスカーション

『高松伸の設計した建造物を知るとともに、デジタル一眼レフの使い方を知ろう！』をテーマにした、植田正治写真美術館の見学とワークショップに参加しました。

5.1 タイムスケジュール

9:50~10:35 美術館見学 (45分)

10:40~12:00 作品解説・ワークショップ〔撮影会・作品発表〕(80分)

5.2 植田正治とは

植田正治(1913年3月27日~2000年7月4日)は山陰地方を拠点に活動し、独特な「演出写真」で人気を誇る写真家です。特に、フランスでは「Ueda-cho(植田調)」という言葉で広く紹介され、世界的な評価を受けています。最近では、シンガーソングライター・俳優の福山雅治氏が師事し、美術館で個展を開くなど、世間の注目を集めました。

5.3 施設概要

建築家 高松伸氏の設計です。のどかな田園風景にぽつんと現れる外観は、植田正治氏のスタイルに見られる“無機質さ”をそのまま表現しています。展示室を分断するこ

とによって群的なシルエットを形成するとともに、大山を軸としたゆるやかなカーブ状の壁で囲うことにより、眼前にそびえる大山そのものを建築意匠として取り入れるなど、周辺環境と調和しています。



5.4 内容

企画展示『植田正治、イメージの誕生』を観覧し、初公開の直筆「作画計画ノート」などを観ることができました。植田正治の三男、植田亨氏よりスライドショーによる解説をしていただき、作品誕生の裏側を紹介していただきました。『小狐登場』は印象深く、丘の上で狐の面をした子供(植田亨氏が子供のころ)が飛んでいる瞬間を撮ったもので、高い精神性を感じ取ることができます。

デジタル一眼レフを使って、撮影会が行われました。被写体をオブジェのように配置した連続するポーズを5カット撮影し、演出写真として収めました。各県からそれぞれ代表者1名を選出し、作品をスライドショーで発表しました。ちなみに、広島県代表は小生が務めました。



6 おわりに

避難所の運営は、集まってきた人達が協働しても、思うようにいかないかもしれません。避難所どうしが連携(つなぐ)することで、よりよい衆知が結集できるのではと考えています。また、避難所運営マニュアルなどを策定している事業体もありますが、事業体や近隣住民などと連携して、どのように発展させていくかは、今後の課題であると考えています。(記・情報広報委員会 水守寛敏)



(開催予告)

伊藤豊雄講演会 in 薬師寺食堂^{じき どう}

薬師寺に伊東豊雄氏来る！

伊東豊雄氏については今更プリツカー賞受賞だとかヴェネツィア・ビエンナーレ金獅子賞受賞だとかつけ加える必要がなく、我が国を代表する建築界の重鎮である。その伊東氏が奈良の地に降り立ち近況や建築観を語っていただくのだから、我々建築士会としてはこの機会を逃すわけにはいかないであろう。千載一遇のチャンスとはまさにこのことを言うのだ！

マエストロ伊東豊雄氏

伊東氏は1941年の生まれ。安藤忠雄氏、長谷川逸子氏と同年生まれということになる。東京大学卒業後菊竹清訓設計事務所を経て独立。せんだいメディアテークや台湾のオペラハウスなどの大きな公共建築だけでなく、TOD's 表参道ビルや横浜駅の地下換気塔など民間建築や小規模の作品にも氏の創造性が現れている。

薬師寺食堂^{じき どう}

国内外問わずさまざまな建築に関わった伊東氏であるが、意外なことに歴史的建造物の復興に関わったのは今回の薬師寺食堂^{じき どう}内観設計が初めてだそう。このことは同世代の安藤氏と対象的である。ただし今回も復興とは言えかつて2度焼失した建物を境内で発掘された遺構や資料をもとに今回新たに建設されたもので、復元新築という方が正しい表現であろう。建物の実設計と施工監理は竹中工務店。内部の基本設計と実施設計監修は伊東豊雄建築設計事務所がそれぞれ手がけた。かつて食堂は僧職が食事や儀礼をする場所であり、300人が一堂に会する事ができたという。再建後も法話などで同規模の人々を受け入れるようにするため、内部の柱をなくし広大な無柱空間を鉄骨造で再現している。内部の御本尊絵図と壁画については氏と同年生まれの田淵俊夫画伯による制作である。

大伽藍に身を置く貴重な経験

現代の技術を駆使し、歴史を再現する建築手法を見学できるのはまたとない経験であるし、氏のメッセージに直接耳を傾けられるのは大変素晴らしいことであるが、何より豪華絢爛な天平伽藍に身を置き歴史を五感で感じる経験は他にも替えがたい刺激となるだろう。5月に落慶法要が行われ今回は一般公開後特別に我々のためにその大伽藍を公開していただけるということになる。これぞまさしくプレミアムな体験である。太古にこれだけの大空間が存在し多くの人が生活をしていたことにロマンを馳せながら、この日ばかりは天平の大きな腕に抱かれながら至高のひとつとき

を過ごしてみようではないか。

伊東豊雄氏講演会+薬師寺食堂特別拝観は12月2日土曜日開催予定。

建築士会のみならずにはお知り合いを呼びあわせて是非参加いただきたい。

※先日伊東氏は国際建築家連合(U I A)よりゴールドメダルを受賞されました。氏の受賞を心よりお慶び申し上げます。

(記・教育事業委員会 吉田泰造)



建築士会CPD制度 2単位

TOYO ITO

at YAKUSHIJI

『建築の夢』

伊東豊雄講演会× 薬師寺食堂特別拝観

日 時 : 平成29年12月2日 土曜日
 13時00分～15時30分
 受付開始12時00分
 場 所 : 薬師寺食堂(じきどう)
 奈良市西ノ京町457
 入場料 : 一般 2,000円 (学生は無料)
 建築士会会員 1,000円
 ※薬師寺拝観料等含む
 定 員 : 300名(事前申込制・受付順)
 問合せ : 一般社団法人奈良県建築士会
 TEL 0742-30-3111
<http://nara-kenchikushikai.or.jp/>
 主 催 : 一般社団法人奈良県建築士会
 特別協力: 法相宗大本山 薬師寺
 協 力 : 株式会社竹中工務店(予定)
 協 賛 : 株式会社 総合資格
 後 援 : 奈良県・奈良県教育委員会
 奈良市・奈良市教育委員会
 奈良文化財研究所
 (一財) なら建築住宅センター
 (一社) 奈良県建築士事務所協会
 (公社) 日本建築家協会近畿支部
 (一財) 奈良県ビジネスビューロー
 (公社) ソーシャルワイエンスラボ
 (予定を含む)
 一般社団法人 奈良県建築士会
NARA Association of Architects & Building Engineers



お知らせ

Information

●ホームページ・ヘッドライン

- 【生駒支部】 法隆寺中門・地蔵堂 保存修理工事
現場見学会 参加報告
- 【青年委員会】 近畿青年建築士フォーラム2017
事業報告

●平成29年度建築士試験日程の案内

1 平成29年一級建築士試験日程

- ①「学科」合格発表 9月5日(火)予定
②「設計製図の試験」 10月8日(日)
③「設計製図」合格発表 12月21日(木)予定

2 平成29年二級建築士試験日程

- ①「学科」合格発表 8月22日(火)予定
②「設計製図の試験」 9月10日(日)
③「設計製図」合格発表 12月7日(木)予定

3 平成29年木造建築士試験日程

- ①「学科」合格発表 9月5日(火)予定
②「設計製図の試験」 10月8日(日)
③「設計製図」合格発表 12月7日(木)予定

※詳細は（公財）建築技術センターのホームページをご覧ください。

●「監理技術者講習」のご案内

監理技術者は建設業法第26条第2項に定められた資格者で、工事請負金額4,000万円以上（建築一式工事は6,000万円以上）の請負工事への配置と、5年毎に「監理技術者講習」を受講することが法律で義務付けられています。日本建築士会連合会では、国土交通省から同講習の登録講習機関として登録を受け、監理技術者講習を実施します。設計者にとっても建築施工の現状を学べる有意義な講習であり、建築士会CPD認定講習でもあることから、設計業務にのみ従事する方にも学習を目的として受講をおすすめしております。

開催日程：平成29年11月22日(水)
12月19日(火)
平成30年2月15日(木)
3月27日(火)

時 間：8:50～16:40

定 員：各30名

●「既存住宅状況調査技術者講習」のご案内（移行講習）

受講対象：国土交通省の長期優良住宅化リフォーム推進事業のインスペクターとして講習登録団体に登録されている建築士（一級、二級、木造）

開催日程：平成29年10月17日(火)

時 間：9:20～15:40

定 員：24名

新入会員のご紹介 『よろしく』

氏 名	支部	勤務先〒	勤 務 先 住 所	勤 務 先
大 嶋 勝	高田	635-0833	北葛城郡広陵町馬見南4丁目1-5-5	大嶋建販 大嶋マサル建築士事務所

編集後記

2020年の開催に向け、東京オリンピック施設の整備が急ピッチで進んでいる中、メイン会場となる新国立競技場の現場で働いていた建設会社の社員が過重労働が原因で自殺したことがニュースに載りました。過重労働は、この会社特有の問題なのでしょうか。

建築のデザインが変更され、工事が当初の予定よりも遅れている。そういった中で始まった工事です。オリンピックの開催そのものが延期されることは絶対にないわけで、工期の延長は絶対にありえません。工事関係者にかかるプレッシャーは、相当なものだと思います。

建設業界で長時間労働が減らない原因として、発注者の工期やコストに関する要求に応えるために無理を強いられることが

あります。発注者の姿勢に問題があるとともに、それに応えようとする業界全体の姿勢も問題ではないでしょうか。

また、建設業界は、慢性的な人手不足に陥っており、特に若者の人材不足は深刻な問題です。そのため、一人当たりの労働量は増える一方です。人材不足は、過重労働に拍車をかけている大きな要因だと考えられます。何か良い解決策はないのでしょうか。

話は少し変わりますが、建築士会も新規会員不足が問題になっています。こちら、なかなか良い解決策が見当たらないのが現状です。

人材不足は大きな問題です。
(記・宮浦重彦)

Calendar

2017年9月

- 3(日) 歴史的建造物調査(奈良市明治地域)
- 10(日) 二級建築士試験(設計製図)
奈良県防災総合訓練
- 13(水) 既存住宅状況調査技術者講習
(新規講習)
- 16(土) 歴史的建造物調査(奈良市明治地域)
- 18(月) ☒ 敬老の日
- 23(土) ☒ 秋分の日
3委員会合同見学会・富山県(～24日)

Calendar

2017年10月

- 8(日) 一級・木造建築士試験(設計製図)
- 9(月) ☒ 体育の日
- 17(火) 既存住宅状況調査技術者講習
(移行講習)

士 會 奈 良

通巻615号

平成29年9月1日(発行隔月1回1日発行)

発行所 一般社団法人 奈良県建築士会
〒630-8115 奈良市大宮町2丁目5-7 奈良県建築士会館
電話 0742-30-3111 FAX 0742-33-4333
<http://nara-kenchikushikai.or.jp/>
info@nara-kenchikushikai.or.jp

発行責任者 瀧上 徳光

編集 (一社)奈良県建築士会 情報・広報委員会

印刷所 株式会社 明新社

日本で最も多くの1級建築士を輩出し続けている学校です。

※平成24～28年度(過去5年累計)1級建築士設計製図試験 合格者合計19,562名中、当学院受講生10,636名、全国合格者占有率54.4%。平成28年度1級建築士設計製図試験 全国合格者3,673名中、当学院現役受講生1,957名、全国合格者占有率53.3%。

平成28年 1級建築士 設計製図試験

奈良県
合格者占有率

No.1

奈良県 合格者占有率

60.9%

奈良県合格者23名中、当学院現役受講生14名

平成28年 2級建築士 設計製図試験

奈良県 ストレート合格者占有率

46.7%

奈良県ストレート合格者45名中、当学院現役受講生21名

平成29年度
1級・2級建築士
学科対策講座

1/15日・18日

1月開講日
お申し込みは
お早めに!

1級・2級 建築士
1級 管工事施工管理技士

建築設備士
設備設計・設備設計1級建築士

1級・2級 建築施工管理技士
宅地建物取引士

1級・2級 土木施工管理技士
インテリアコーディネーター



総合資格学院

学院長 岸 隆司



総合資格

検索

Facebook「総合資格 市」で検索

スクールサイト

www.shikaku.co.jp

コーポレートサイト

www.sogoshikaku.co.jp

奈良校 TEL.0742-30-1511

奈良県奈良市西大寺栄町3-27 泉谷ビル 4F

近鉄大和西大寺駅北口から徒歩5分